

第3回和歌山県子ども施策審議会議事概要

日時 令和7年2月21日（金）16時30分～17時30分

場所 和歌山県書道資料館2階大ホール

参加委員 森下委員（会長）、中川委員（副会長）、井手委員、上野委員、桑木委員、
田中委員、辻岡委員、中西委員、花田委員、松下専門委員、儘田専門委員

【事務局】

「和歌山県子ども計画案」について説明

以下、発言順

【中員】

計画に反映しなかったパブリックコメントがいくつかあるが、どういう理由か教えていただきたい。

【事務局】

子ども計画は基本的には子ども政策に関する方向性や主な取組を記載する。実施する各施策は計画には記載できないので、各施策の実施に関するパブリックコメントは計画に反映していない。

【委員】

前回の審議会で意見した点も計画に反映いただいている。計画は今後も改善、改定していく形で願います。

【委員】

- ・ウェルビーイングについて、説明がしきれていないように思う。
- ・幼児期から児童期へバトンタッチする施策をしっかりと実施してほしい。

【委員】

- ・子どもが、自分たちの意見が県の政策、計画に反映されていく経験を積むことができるいい機会になった。
- ・子どもに関わる教員の研修を重ねて、子ども達に胸を張って「和歌山県はこういう風に考えている」という方向に向けていただきたい。

【委員】

- ・ こどもの意見はどのように聞いていくのか。
- ・ 注釈があり分かりやすい文章になっている。

【事務局】

モニターアンケートや、令和7年度は高校生に集まってもらい県の政策等の議題について意見を言うこども会議等、意見を言う場を作っていく。

【委員】

- ・ 注釈が多くなり分かりやすくなった。
- ・ 前回意見した防災のことや障害のある人の支援を追記していただいている。
- ・ 計画は方向性なので、実施をすることが重要。
- ・ こどもが権利の主体であることの情報発信の取組が重要。和歌山県でこどもの権利に関する条例を策定し、それをもとに計画を実施していく法的裏付けが必要。

【委員】

- ・ 多くのパブリックコメントが寄せられ、計画に反映させられている。
- ・ 計画はデジタルデータであるが、紙媒体も検討いただきたい。

【委員】

- ・ 前回意見した教育機関や就労福祉サービスの連携強化、共働きや共育での推進が追加されている。
- ・ こどもからのパブリックコメントがあるが、「取組を行います」だけでなく、「こういうことをする」という回答があるとこどもも自分の意見を聞いてくれていると思うのではないか。

【委員】

地域の大人とこどもを繋ぐ役割を担う方を確保するため、地域の活動に学生などが積極的に関わることが重要。

【委員】

- ・ 小児科医の役割が医療だけでなく福祉、保健、教育に広がっていくべきであるし広がってきている。そういったところがこの計画には反映されているので、小児科医として意思決定の場で意見を述べていきたい。

【委員】

- ・ 前回意見したことが反映されており、注釈も増えているので分かりやすくなったと思

う。

- ・委員の意見だけでなく一般県民の意見を広く取り入れられている。
- ・計画を実現するのが一番大事なところ。実現にあたりこどもの意見を聞きながら実行に移していかないといけない。

【委員】

時代は速いスピードで変わっていく。そこにいる子どもたちをみて、何がなかをし
っかりと向き合いながら計画を進めていただきたい。